

令和 5 年度「学術交流協定校との国際シンポジウム開催支援事業」報告書
 “Grant for International Symposium with Academic Partner University in FY 2023” Report Form

2023 年 12 月 11 日

実施責任者 職・氏名 Responsible faculty member(Title, Name)	助教 Assistant Prof. 有馬 孝彦 Takahiko Arima			
シンポジウム名 Symposium title	第 9 回地盤環境・リサイクル工学ジョイントセミナー (GER2023) The 9 th Joint Seminar on Geoenvironmental Engineering and Recycling (GER2023)			
実施期間 Date, Time	2023 年 11 月 2 日～3 日 2 nd Nov – 3 rd Nov 2023			
シンポジウムの具体的な開催内容 Describe the contents of the symposium	本セミナーは、地球規模の地盤環境およびリサイクル分野の技術的課題に対して、最新の技術動向や研究進捗に関する意見交換の機会を提供することを目的として実施した。特に、本シンポジウムでは、学生や若手研究者による研究紹介やプロジェクト進捗のプレゼンテーションを中心に実施し、学生や若手研究者の交流促進を図った。本年度は、2 件の若手基調講演、40 件の口頭発表、トンネル施工現場視察を実施した。			
出席者数 Number of Participants	合計/Total 50 人 人/Participants			
	内訳/Details			
	人数/ Number of Participants	身分/Status	国/Country	所属機関名/University Name
	11 名	教員, 学生	日本	北海道大学
	5 名	教員, 学生	タイ	チュラロンコン大学
	4 名	教員, 学生	韓国	ソウル大学
	6 名	教員, 学生	中国	太原理工大学
他 24 名	教員, 学生	日本, フィリピン	秋田大学, 早稲田大学, ミンダナオ州立大学イリガン工科大他	
シンポジウム開催による成果 Outcome	本年度のシンポジウムはコロナ禍での制約条件が解除された後の最初のシンポジウムであり、40 件の口頭発表が行われた。そのうち 6 件は北海道大学（修士学生 5 名、特任助教 1 名）の発表が行われ、国際発表経験や多くの海外研究者からのコメントを得ることができた。また、地盤環境・リサイクルの研究を通じて、日本・韓国・中国・タイ・フィリピンの若手教員・学生の交流が行われ、国際的な交流機会の提供や今後の国際連携の足掛かりとなった。特にコロナ禍で約 3 年対面での交流が行われていなかったため、初対面となる研究者・学生も多かったが、既存参加者および e3 プログラムの卒業生 6 名（韓国 2 名、フィリピン 3 名、タイ 1 名）を通じて、積極的な交流や更なる人脈形成の強化につながった。			
今後の展望と課題 Future prospects and issues	次年度は中国で開催予定となっており、本年度の参加者は継続的な交流や研究連携が期待される。さらに、来年度、新たに参加する研究者・学生においても、今年度の交流をきっかけに円滑な交流が可能になると評価される。			
その他 (本事業の要望等) Comment for the grant	特にございません。			



写真 1：口頭発表が実施された工学研究院での集合写真



写真 2：トンネル現場視察での集合写真